

ぐんまの消防

第44号

令和7年度発行



防災意識の芽生え

表紙写真 桐生市消防本部：施設見学

団長の熱き思い



神流町消防団

神流町消防団の活動の根底にあるのは、「自分の町は自分で守る」という強い思いです。災害や火災は、いつ、どこで起きるかわかりません。その時、地域を守るのは私たち自身です。誰かが来てくれるまでは待つのではなく、私たちが立ち上がり——その覚悟が消防団の原点です。

しかし、人の命を守るためにには、必ず自分の命を守らなければ欠かせません。なぜなら、私たちが倒れてしまえば、助けを必要とする人を守らなければなりません。だからこそ、活動のすべてにおいて「安全第一」を徹底しています。装備の確認、仲間との連携、危険を予測する判断力——これらは、勇気と同じくらい重要な力です。私たちは、無謀な挑戦ではなく、冷静な判断と確かな準備で地域を守ります。

一方で、消防団を取り巻く環境は変化していきます。人口減少により団員数が減り、高齢化も進んでいます。さらに、団員の多くがサラリーマンとなり、平日日

具体的には、ボンバ操法訓練の取りやめや、消防団に関する行事の簡素化を進めています。形式や慣習にとらわれず、本当に必要な活動に集中する」とことで、限られた時間と人員を有効に活かすことができる。また、過去には定年制を廃止し、年齢に関係なく、できる限りを旨で考え、役割を分担する仕組みへと変えました。体力に応じた活動や経験を活かせる場をつくることで、誰もが消防団の一員として誇りを持ち続けるようにしているのです。

私は団長として、団員一人ひとりが無理なく、そしてやりがいを感じながら活動できる環境を整えたい。地域の安全を守るためにこの使命は変わりません。これからも、知恵と工夫で課題を乗り越え、神流町の安心を未来へつなげてききます。

中に活動できる人が少なくなっているのが現状です。このした状況に対応するため、私たちは「持続可能な消防団活動」を目指し、負担軽減と活動の合理化に取り組んでいます。

瑞宝小綬章		長年にわたる消防業務の功績により 勲勲及び表彰された方々を紹介します。			
元前橋市	中澤 勇一	元前橋市	松嶋 清水	元前橋市	松嶋 充夫
元前橋市	謙二	元前橋市	伏島 俊	元前橋市	伏島 浩
元太田市	猿谷 中島	元太田市	猿谷 中島	元太田市	猿谷 至
元伊勢崎市	白石 茂	元伊勢崎市	白石 茂	元伊勢崎市	白石 和之
元伊勢崎市	石井 道広	元伊勢崎市	石井 道広	元伊勢崎市	石井 道広
元桐生市	早川 悅男	元桐生市	早川 悅男	元桐生市	早川 悅男
元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	熊川 美朗	元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	熊川 美朗	元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	熊川 美朗
元嬬恋消防団	高橋 一行	元嬬恋消防団	高橋 一行	元嬬恋消防団	高橋 一行
元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	橋 清己	元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	橋 清己	元渋川地区広域市町村圏振興整備組合	橋 清己
元前橋市	大澤 富太郎	元前橋市	大澤 富太郎	元前橋市	大澤 富太郎
元太田市	久保田 真二	元太田市	久保田 真二	元太田市	久保田 真二
元前橋市	森田 光雄	元前橋市	森田 光雄	元前橋市	森田 光雄
元桐生市	大岩 昭芳	元桐生市	大岩 昭芳	元桐生市	大岩 昭芳
元桐生市	佐藤 信幸	元桐生市	佐藤 信幸	元桐生市	佐藤 信幸
元太田市	石川 和男	元太田市	石川 和男	元太田市	石川 和男
元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	新井 勉	元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	新井 勉	元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	新井 勉
元高崎市・安中市消防組合	横山 賢一	元高崎市・安中市消防組合	横山 賢一	元高崎市・安中市消防組合	横山 賢一
元高崎市	小林 直暮	元高崎市	小林 直暮	元高崎市	小林 直暮

令和七年度表彰



消防団紹介



問い合わせ: 各市町村役場へ

東吾妻町消防団

東吾妻町は群馬県の北西部に位置し、周囲には榛名山や浅間隠山など標高1000メートル以上の山々が連なっています。その山々は豊かな水をもたらし、環境省の「名水百選」に選定された箱島湧水や名勝吾妻峡など、自然豊かな町です。

我が東吾妻町消防団は、団員数二七八名、六つの分団から構成され、ポンプ自動車一〇台、小型ポンプ付積載車六台、計一六台の消防車両を所有しています。東吾妻町は大きく分けて五地区を六つの分団で管轄し、地域の安全と安心を守っています。

平形幸治団長の指揮の下、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い信念を持ち、日々活動を行っています。

近隣の消防団や吾妻広域消防本部等とは、「顔の見える関係」を築くとともに、交流と絆を深め、有事の際の協力体制強化に努めています。

近年、当町において行方不明者発生などによる捜索活動が年間数件程度発生していることから、本年六月に当消防団において初めて「要救助者捜索救助訓練」を実施しました。この訓練は、山中での要救助者発生を想定し、実際の捜索救助活動の際に団員が迅速かつ的確な行動をとれるようになることを目的として実施したもので



等の影響により、今後も団員の確保が大きな課題となることが見込まれています。そのため、今後は分団の統廃合や訓練体系の見直しなどを行い、消防団員の負担を軽減し、活動しやすい環境づくりを進めていく所存です。

最後に、東吾妻町消防団は今後も町民の安全と安心を守るために日々精進してまいります。

前橋市消防団

前橋市消防団は一消防団、六方面団、一〇分団、五九部で構成され、条例定数は一三二〇名です。令和七年十月一日現在での実員は一〇六七名で、条例定数に対する充足率は八〇・八%となっています。

年間の主な活動内容としては各種災害対応のほか、あらゆる災害を想定した実践的な定期訓練を重ねるとともに、ポンプ運用訓練や車両操縦訓練、無線運用訓練、新入団員研修など、それぞれの階級に合わせた教養訓練を年間通して計画的に行っています。

また、地域での催しの警戒にも積極的に参加し住民と交流する」とにより、消防団を身近に感じ、地域防災への備えを理解してもらえるよう地域との連携にも力を入れています。近年では消防団への入団促進はもとより、幅広い世代に消防団を認知してもらうことを目的とした広報活動にも力を入れており、各種イベントへの参加をはじめ、市内の駅やショッピングモール、大学の学園祭などに出向き、パンフレットやグッズの配布を通じて消防団のPRを行っています。今年からは新たな試みとして前橋花火大会での広報活動も実施させていただきました。

近年、広報活動のツールとして欠かすことのできないものが、SNSの訴求力です。本市消防団では数年前から公式インスタグラムを開設し、活動の様子を発信しており大きな反響をいただいているます。是非「前橋市消防団」と検索していただき、公式Instagramをご覗いただけますと幸いです。

近年、自然災害が激甚化、頻発化する中、地域住民を守る我々消防団の役割は一層高まっております。しかし、人口減少や少子高齢化、雇用形態の変化などが重なり、消防団を取り巻く環境は大きく変わり、団員一人ひとりにかかる負担は大きくなる一方です。本市消防団においても消防団員の減少や高齢化などの問題を抱えており、消防団活動のさらなる活性化に努めていかなければなりません。

地域防災の要である消防団活動を維持していくためには、消防団運営の見直しに取り組み、団員の負担軽減を図り、魅力ある消防団となるような体制づくりが必要不可欠だと感じています。諸先輩方が築き上げた消防団ならではの伝統を継承しつつ、時代の変化に応じた消防団運営を心掛け、先進的かつ積極的な取組に注力していくればと考えています。今後においても団員が一丸となって地域住民の信頼と期待に応えるべく、質の高い消防団を目指して精進してまいります。



『火災調査部会の活動 ～群馬県消防長会～』



火災調査部会の活動目的は、群馬県内の消防本部の火災調査能力向上、情報共有及び協力体制の構築にあります。定期会議で情報共有を図り、県内の消防本部を対象に実技研修会、特別講演会、実務研修会を行っております。

今年度は電気機器に関する実技研修会、県外の消防局から講師を招いての火災例特別講演会を行いました。2月には、県内の消防本部による火災事例発表（実務研修会）の開催を予定しております。これららの研修を通して火災調査能力の向上を図り、火災の出火原因の判明率が上がることで、火災の減少に繋がります。

本部会活動を通して、今後も火災予防に尽力してまいります。

『消防救助技術指導会 ～群馬県消防長会～』

6月5日(木)、群馬県消防学校及びしん大渡温水プールにおいて、「第49回群馬県消防救助技術指導会」が開催されました。この指導会は、救助技術に必要な基本的要素を鍛錬するを通じて、救助活動に不可欠な体力、精神力及び技術力を養うとともに、群馬県内の消防職員が一堂に会し、成果を発表することにより、救助技術の更なる向上及び連帯意識の高揚を図ることを目的に開催しております。

声援と拍手が鳴り響き、高まる緊張感の中、各本部を代表する隊員たちは、培った訓練成果を遺憾なく發揮し、盛況です。これららの研修を通して火災調査能力の向上を図り、火災の出火原因の判明率が上がることで、火災の減少に繋がります。



『熱中症予防及び救急車適正利用に関する街頭広報の実施～高崎市等広域消防局～』

夏季は救急出動件数が増加傾向があり、とりわけ熱中症による救急搬送人員は、全国的に年々増加しています。これは、当消防局管内においても同様であり、この課題に対して具体的な対策を講じることが急務となっています(当消防局の熱中症救急搬送人員は、今年過去最多を更新)。

このことから、当消防局では多くの人でにぎわう高崎駅西口周辺において、高崎中央消防署を中心、熱中症予防及び救急車適正利用の広報活動を実施して

のうちに指導会を終えることが出来ました。

なお、上位大会の「第53回消防救助技術関東地区指導会」及び「第53回全国消防救助技術大会」に出場した消防本部の結果は次のとおりです。



結び付けたことができました。今後も熱中症から市民を守り、救急車の適正利用に理解を求めるため、積極的な広報活動を継続していきます。

訓練種目		代表消防本部	上位大会出場結果	
陸上の部	はしご登はん	利根沼田広域消防本部	全国消防救助技術大会	入賞
	ロープブリッジ渡過	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会	入賞
	ロープ応用登はん	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会	入賞
	ほふく救出	桐生市消防本部	全国消防救助技術大会	出場
	ロープブリッジ救出	利根沼田広域消防本部	関東地区指導会	入賞
	引揚救助	利根沼田広域消防本部	関東地区指導会	出場
	障害突破	前橋市消防局	関東地区指導会	出場
水上の部	人命救助	前橋市消防局	全国消防救助技術大会	出場
	複合検索	高崎市等広域消防局	関東地区指導会	入賞
	基本泳法	桐生市消防本部	関東地区指導会	入賞
	溺者搬送	高崎市等広域消防局	関東地区指導会	出場
	溺者救助	桐生市消防本部	関東地区指導会	入賞
	水中捜索	前橋市消防局	関東地区指導会	出場
	水中検索救助	高崎市等広域消防局	関東地区指導会	出場

『地域の絆で守る・火のないまちづくり』

伊勢崎市女性防火クラブ 副会長 久保田 明子

このたび、令和7年度より伊勢崎市女性防火クラブの副会長を拝命いたしました。長く続いてきた活動の歴史と、これまでクラブを支えてこられた先輩方の思いを受け継ぎながら、これから時代にふさわしい新しい取り組みを進めていく責任を感じております。

近年は、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で相次いでいます。火災だけではなく、さまざまな災害に備えることの大切さを、私たちは日々痛感しています。また、高齢化や人口減少が進み、地域のつながりが薄れつつある今だからこそ、互いに声をかけ合い、助け合う関係づくりが一層大切になつてているのではないかと感じています。災害は一人の力では防ぐことができません。地域全体で支え合つことで、初めて「守れる命」があるのだ感じています。

女性防火クラブの活動の基本は、「家庭から火災を出さない」ことです。台所や暖房器具を安全に使うこと、日頃から火の元を確認すること、そして非常時に備えた準備をしておくこと。どれも小さなことのように思えますが、その積み重ねが家庭の安全を守り、地域全体の防災力につながります。また、日常の中で家族や近所と声をかけ合い、互いを気にかけることが、いざといの時の大変な力になると信じています。



『令和7年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会について』

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

そしてもう一つ大切なのは、次の世代への継承です。子どもや孫の世代に、火の怖さや備えることの大切さを伝えることは、私たちにできる大切な役割の一つです。クラブの活動を通して、世代を越えて学び合ひ、支え合える地域づくりを進めていきたいと願っています。

副会長という新たな立場をいただいた今、私は「防火・防災は誰かの仕事ではなく、自分のこと」と感じていただけるような活動を図っています。女性ならではの優しさときめ細やかな気配りを生かしながら、仲間の皆さんと力を合わせて、安心して暮らせる地域づくりに少しでも貢献できれば幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

第一部では、「沼川市女性防火クラブ」と「嬬恋村婦人消防隊」の二つの地区による活動状況発表をしていただきました。両地区とも火災予防活動に積極的に取り組んでおり、地域の防火意識の高揚に大きく貢献されている様子がうかがえました。

第一部では、法相宗大本山薬師寺副住職・大谷徹氏による「心の防災～ステージチャンジと新しい生き方～」と題して講演をいただきました。大谷氏は、「一九九九年春から「心を耕そづ」をテーマに全国各地で法語行脚を続けており、現在まで精力的に活動をされています。



事例発表の様子



事例発表の様子



講演の様子

講演では、従来の一方的な講義形式ではなく、読み書きを通じて参加者が主体的に関わる内容で、参加者の皆様からも大変好評をいただきました。人生は予測できない出来事の連続であり、災害や病気、社会の変化に備えるには、物理的な準備だけでなく、心の準備が不可欠であると語り、そのためには、日々の生活の中で「心の貯金」を積み重ねることが重要であり、それがいざという時に自分や他人を救う力になると述べられました。コトモアを交えた講演は一時間があつという間に過ぎ、クラブ員の方からはもう少しお話を聞きたかったと声があがりました。

研修は長時間に及びましたが、参加者の皆様の御協力により、大変有意義な研修会となりました。今後もこのような機会を大切にし、県内女性防火クラブ相互の発展と連携強化につなげてまいりたいと考えております。

第26回全国女性消防操法大会に出場して

伊勢崎市消防団 境方面隊第13分団 団員 福島 祐香

(指揮者担当)

私たち伊勢崎市女性消防隊は、横浜赤レンガ倉庫イベント広場で開催された「第26回全国女性消防操法大会」へ群馬県代表として出場してきました。

全国女性消防操法大会は、女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的としており、迅速、かつ、安全に消防用機械器具の操作技術を競うものとなります。今回の大会では、全国各地から選抜された44の女性消防隊が集結し熱戦が繰り広げられ、大会3連覇を狙う熊本県チームを千葉県チームが破り初優勝を飾っております。私たちのチームは、入賞することは叶いませんでしたが、大会の雰囲気に聴くことなく、大会本番でベストタイムを出すことができ、メンバー一同、大変満足しております。

伊勢崎市消防団では45個の分団があり675名の団員が在籍しておりますが、その中で女性消防団員は14名と、まだ少ない状況です。今回、伊勢崎市が群馬県代表として出場するのは約30年ぶりのことであり、メンバー選定から難航しました。ほとんどが団歴の浅いメンバーで、その内の4人は入団もない団員です。そもそもポンプ操法を知らないし、見たこともないという状態からのスター

トでした。県内予選などもなく、いきなり群馬県代表として全国大会に出場しなければならず、正直なところとても重圧でした。練習はいつから、どこで、何時からどのよろにすみのか。いったい準備資金はどれくらい必要なのか。誰も何も分からぬ中ですべてが手探りでした。

今回、消防団長である金井団長の声かけにより、所属の垣根を越えて、団本部執行部、メンバーの所属する各方面隊の隊長、副隊長、団本部以外からも多くの方々に指導担当として協力していただきました。始めはお互いがよく分からぬ中でどのように練習や指導をしていくのか、どこまでメンバーに言つていいのか、指導担当の方々も悩まれたと思いますが、大会

が近づくにつれ、メンバーより指導担当の方々方が楽しそうに和気あいあいと活動されている姿がとても印象的でした。

限られた短い期間ではありましたが、メンバー、指導担当、消防職員の方たちが一丸となって創意工夫をしながら良い練習ができたと感じております。また、練習場所や環境面での配慮、調整など消防職員の方々にも様々なご支援いただきました万全なサポート体制のもと練習を進めることができました。

大会当日は大緊張の中、出場順がら番目ということでも早く、大渋滞に巻き込まれた応援団の方々の到着が間に合わないのではないかとヒヤヒヤしましたが、何とか間に合い練習の成果を皆わがへお見せすることができました。

女性消防隊の青山隊長は、本番前に緊張する私たちのために明るく振る舞つてくれ、私たちの操法が終わると一人人大泣きしていました。女性消防隊の隊長という立場はとても大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。

今回の大会を通じ多くの方々から長きにわたり惜しみない協力と支援、ご声援をいただき本当にありがとうございました。また、メンバーとそのご家族皆さまの協力のおかげで大会へ出場することができたこと、心より感謝いたします。

メンバーは普段別々の分団に所属しておりますが、今回の大会を通じて仲良くなり、再び青春を謳歌することができとても楽しかったです。皆さん、本当にありがとうございました。そして本当にありがとうございました。



群馬県殉職消防職団員 慰靈祭を挙行



令和七年十月三十一日(金)群馬県消防学校の慰靈碑前において、群馬県殉職消防職員・消防関係者など六十名のご参加を頂き厳粛に執り行われました。

群馬県消防協会会長である山本知事により、式辞が述べられその後、参列者の皆様による献花が行われ、殉職者の御靈に対して敬意を表すとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。

群馬県団長研修会 開催

令和七年十一月二十日(木)伊香保温泉ホテル木暮にて、団長三十四名の出席により団長研修会を開催いたしました。

研修会は、富岡甘楽支部・下仁田町消防団団長黒澤雅史様及び吾妻支部・高山村消防団団長後藤英樹様より「団員確保

に係る取組み及び災害活動等」の報告をいただき、その後群馬県消防保安課職員が撮影編集した消防団PR動画を四本上映しました。休憩をはさみ、令和七年二月に発生した「岩手県大船渡市林野火災」について、緊急消防援助隊として現地に派遣された前橋市消防局消防司令長酒井聰氏により、活動内容のご講演をいたしました。



☆精勤章	五年勤続	四〇六名
☆精積章	☆功労章	『表彰者総数 三一五〇名』
☆永年勤続功労章	一五三名(三五名)	
五年勤続	三三八名(一六六名)	
☆永年勤続退職者表彰	四四〇名	
()内は消防職員数で内数		
☆三世代伝承等優良消防団員顕彰	三一九名(二五名)	
四名		

2025年度全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

県内の消防の現況

(令和7年10月1日現在)

消防団員数	10,519人	(前年比 193人減)
男性	10,285人	(前年比 205人減)
女性	234人	(前年比 12人増)
消防職員数	2,580人	(前年比 5人減)

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会

前橋市大手町一丁目1番1号

群馬県総務部消防保安課内

TEL 027-220-1338

URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>

編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会

常任理事 高橋剛生

印刷所 朝日印刷工業株式会社